



# 今宮高校 & 大國保育園 & 職員 花植えボランティア集結 総勢59名の参加で社会貢献を



第2号  
令和6年11月発行  
3事業部企画委員  
村田 智世

10月28日、大阪府立今宮高等学校の※共生推進教室の生徒6名、総合学科の生徒18名、大國保育園の園児20名、教員と愛染園職員を含め、総勢59名が花植え事業に参加しました。高校生がマンツーマンで園児をサポートし、園児が種から育てたキンセンカ20株とパンジー、ストック、プリムラジュリアン、シクラメン、ノースポール、シロタエギクの6種80株を植栽。作業は1時間ほどで終了し、愛染橋病院の東側の歩道と正面玄関は一気に華やいだ空間になりました。花植え活動を通じて、近隣の方々や、グループホームあいぜんの利用者さんとお話をする微笑ましい光景も見られ、楽しいひと時となりました。

※府立知的障がい高等支援学校の生徒

## みてね！ポット上げ作業

大國保育園にて



▲セルトレイから3号ポットへ移植する様子

10月17日、大國保育園は、大阪城公園事務所と浪速区役所の職員の方々にご協力いただき、9月24日に種まきをしたキンセンカをポットに移植しました。ようやく暑さもおさまりましたが、10月に入っても30度を超える環境下でのキンセンカの発芽率は70パーセント。大阪城公園事務所の職員さんは、『水か切れたらだめなんです。みんなが頑張って毎日お水やりをしてくれたからですね。他の施設もまわっています。大國保育園さんは発芽率が高いです。』とおっしゃっていました。暑さを乗り越えたキンセンカは、きっと春に満開になってみんなを笑顔にしてくれることでしょう。

## 編集後記

3事業部企画の地域協働を取り入れた「花植え事業」。世代や立場、障がいの有無を超えたこの活動は、お互いへの理解と絆を育むとてもいい機会になりました。この度ご協力をいただきました今宮高校と大國保育園の皆様、ボランティア職員の皆様に心よりお礼申し上げます。



▲園児が育てたキンセンカ

現在5名のボランティア職員で、花のお世話をしている花守活動をしています。水やりやお手入れをしていると、花壇には、たばこの吸い殻、ペットボトルや空き缶、不法駐輪など、残念な光景が見かけられます。一方で、ダスキーンさんや、健診センターの職員が清掃をされていたり、植えたお花を見てもらいたいと、園児に連れられて帰宅途中に立ち寄りおばあさまにお会いし、心が和むシーンも。また、園芸知識を身に付けながら、職員同士が交流できるのも、楽しみのひとつです。

利用者も、職員も、通行人も、地域の住人も、すべての人に笑顔とコミュニケーションの輪が広がる「花植え事業」。つながる幸せが愛染園の力になっています。

ひろがる  
「コミュニケーション」の輪